

虫嫌いの子どもの親は虫嫌いかな？—子どもの虫嫌いに与える親の影響—

○ 日高 俊一郎

HIDAKA, Syunichiro

宮崎市教育委員会・大淀川学習館

【キーワード】環境教育, 自然体験, 生物教育

I 研究の目的

本研究の目的は、「昆虫嫌いの子どもの親は昆虫嫌いで、特に虫嫌いに関しては母親の影響を受けやすい。」という仮説を検証し、虫好き、虫嫌いの持つ「虫」のイメージを把握することである。

II 調査

宮崎市内公立小中学校の各1校、各学年1学級を抽出した計215人に平成16年10月1日から10月7日の間に行った。分析の結果、図1、2得られた。

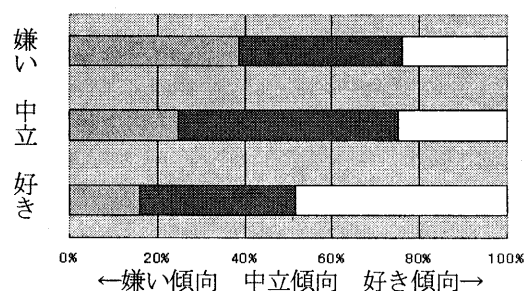


図1 子どもの各傾向群での父親の各傾向群の割合

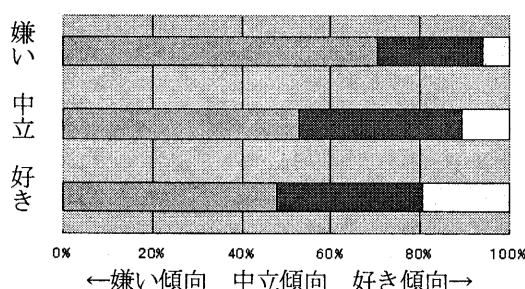


図2 子どもの各傾向群での母親の各傾向群の割合

イメージする虫の具体的な名称を複数回答で最大3種類まで書くように求めた結果を虫好き、虫嫌いの傾向群カテゴリーで集計し、その種類をまとめ表1を得た。また、その結果から、「嫌い傾向群にイメージされる割合の高い虫は、日常的な虫、または、人間に危害を加え

る虫が多い」、好き傾向群にイメージされる割合の高い虫は、甲虫類で非日常的な虫が多い」という特徴が推測できた。

表1 傾向群でイメージする割合の多い虫

分類	種類
嫌い傾向群	カ, ゴキブリ, ムカデ, ハエ, クモ, カメムシ, ケムシ, ガ, カナブン, イモムシ, アリ, ハチ, ダンゴムシ, アオムシ
好き傾向群	タマムシ, クワガタ, カブトムシ, ホタル, スズムシ
関係しない	バッタ, セミ, チョウ, トンボ, テントウムシ, セミ

III 結論

集計結果から以下の結論が導かれた。

- ①母親に虫嫌いの割合が高い。
- ②父親に虫好きの割合が高い。
- ③虫嫌いの子どもの父親や母親は虫嫌い
- ④虫好きの子どもの父親や母親は虫好きの割合が高い。
- ⑤虫嫌いと虫好きでイメージする虫の種類が異なる。

IV 考察

今回の分析で本研究の目的であった、「虫嫌いの子どもの母親は虫嫌いである。虫嫌いの子どもの父親は虫嫌いである。」という仮説に関して検証できた。また、傾向群によってイメージする虫の種類が異なり、その虫にも共通した特徴があることが推測できた。今後の課題として以下があげられる。

- ①「傾向群によってイメージする虫の種類」について統計的に明確な有意差を検定する。
- ②子どもとその父親、母親でイメージする虫が同じか異なるかを明らかにする。
- ③虫嫌い、虫好きの原因を調査内容に加え、被験者数を増やし再調査する。